



なみえ花通信

<https://www.namie-flower.jp>

～なみえに花を咲かせましょう～

- ・トルコギキョウ出荷の最盛期を迎えました
- ・浪江町に活気を取り戻す注目のスポットが登場



浪江フラワープロジェクトの最新情報をホームページで!

毎月、動画をアップ中!ぜひアクセスしてください!

<https://www.namie-flower.jp>



Facebookもチェック

浪江町 農林水産課

〒979-1592 福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2

TEL: 0240-34-0245

<https://www.town.namie.fukushima.jp>



残暑お見舞い 申し上げます



平年よりも8日遅れで梅雨明けを迎えた浪江町は、長雨にも負けることなく、活気に満ち溢れています。8月1日には、町の復興のシンボルとなる「道の駅なみえ」がプレオープンしました。オープン日には開店前から行列ができ、連日多くの人で賑わっています。地元産品や新鮮野菜をはじめ、これまでになみえ花通信で紹介した花農家のトルコギキョウや、前号で紹介した沢上地区のハチミツもお買い求めいただけます。ふるさとの景観を守りたいとの思いからスタートし、地区の「爺たち」が心を込めて絞った、純国産のハチミツは絶品です。ぜひお試しください。またフードコートでは町内の請戸漁港で水揚げされた新鮮な魚や、ご当地グルメの「なみえ焼きそば」を味わうことができます。さらに酒蔵の建設と伝統工芸品「大堀相馬焼」の販売施設の整備も予定されており、今後も目が離せません。農業、漁業、伝統産業—それぞれの立場から浪江町を再び盛り上げるべく、町の人々が立ち上がっています。浪江町にお越しの際は注目の新スポットにぜひ足を運んでみてください。



8月に出荷となった白色のトルコギキョウ



爽やかな笑顔で取材に応じてくれました



ハウス内で刈り取ったトルコギキョウを出荷用に束ねる賢司さん



就農1年目、 新人農家念願の初出荷!

特定非営利活動法人Jinにて1年4ヶ月間トルコギキョウ栽培を学び、今年の春に花農家として独立を果たした、川村賢司さん。2月末から3月に自身のハウスで定植したトルコギキョウが初めての出荷となりました。花の生育から出荷まで、Jinの先輩からアドバイスを受けながら取り組みました。今回の初出荷の手ごたえを聞いたところ「100点満点中、50点くらいです」と賢司さん。「7月に出荷した最初の品種は良かったのですが、その後は花が伸びすぎて出荷が難しくなったり…改善点も見つかりました」と話します。一方で、賢司さんがJinで学んでいた時から期待の眼差しを向けていた、浪江町役場農林水産課の大浦さんは「花の美しさもさることながら、ハウスがきれいに片付いていて作り手の姿勢として素晴らしい」と、嬉しそうに語ってくれました。8月のお盆休み前にはピークを迎えた出荷作業と並行して、12月に出荷予定の苗の定植も行いました。次は100点満点を目指して、新人農家の試行錯誤の日々はまだまだ続きます。



2020年8月1日にオープンを迎えた「道の駅なみえ」。震災後も避難先の山形県で酒造りを続ける鈴木酒造店の酒蔵と大堀相馬焼の販売施設の整備がこれから予定されています



町を明るく彩る、 ひまわり畑ができました。

浪江町に新たなフォトスポットが登場です。「菜の花&ミツバチプロジェクト」をスタートした沢上地区の皆さんが、浪江町を盛り上げるべく、新たなチャレンジに挑みました。沢上地区に広がる「ひまわり畑」です。敷地面積は12ヘクタールと广大で、なんと東京ドーム3個分に相当します。今回植えたひまわりの総本数は何と約250万本。今年は梅雨の長雨に悩まされ、予定よりも遅めの開花でしたが、8月中旬～下旬にかけて満開となったひまわり畑は、町に新しく美しい景観を作り出しました。元々は田畑として使われていた土地で、震災後は復興組合による保全管理が行われてきましたが、人々に癒しを与える場所を作りたいという地区の人たちの想いから今回の構想が始まりました。土地の整備から植栽、草刈りまで全て町民の手で行われ、中心となった佐藤さんは「ひまわりの次は蕎麦も植えます。浪江町の花を使って色とりどりにデザインしていきたい」と話します。来年以降は、満開に合わせてイベントも行っていきたいとのことで、夏の浪江町の外せないスポットになること間違いなしです。



道の駅なみえでも「假屋崎省吾様に認められた花」として町内外にPRしています



道の駅で花の日(8/7)に展示された
鈴の木ファームのトルコギキョウ



地元向けに収穫作業中の荒川さん



段々畑のような丘に咲き誇るひまわりは圧巻です



コロナに負けず、 トルコギキョウが最盛期!

7月から8月のお盆休みにかけて、トルコギキョウは出荷の最盛期を迎えました。今年は新型コロナウイルスの影響で、冠婚葬祭をはじめとするイベントが減ってしまったこともあり、東京などの主要市場での花の価格が下落し、一時は通常の半分程度まで価格が落ち込みました。そこで生産者たちが注目したのが地元、福島県のマーケットです。県内には福島市と郡山市の2箇所に卸売市場がありますが、特定非営利活動法人Jinの清水さんは、コロナ禍の状況で初めて県内の市場に出荷したところ、実は東京よりも福島県内の方が、高い値段がつくこともあることが分かったと言います。また市場以外に、地元の直売所も出荷先の1つになります。浪江町でトルコギキョウの栽培を始めて3年目の荒川さんと菅野さんは、地元向けに道の駅なみえや、田村市の直売所にも出荷しています。この夏は普段なかなか手に入らない、浪江町の質の高いトルコギキョウを、地元のお花屋さんや直売所を通じて福島県内で楽しめる機会になりそうです。



ひまわり畑のオープンに向けてメンバーでガッツポーズ!